



日口交流

発行 : 特定非営利活動法人 日口交流協会

E-mail:nichiro@nichiro.org

Home Page <http://www.nichiro.org>

〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-14麻布台マンション401号

Tel : 03 (5563) 0626 Fax : 03 (5563) 0752



第12回日本文化交流団 (ワニノ・ハバロフスク)

第12回目の文化交流団はロシアの極東ワニノとハバロフスクにて行われた。私にとってワニノは特別な町である。2010年に初めて文化交流団に参加した町がワニノだった。自然豊かで人々が温かいこの町には、日本文化研究センターがあり、交流団の後ずっと連絡を続けている友人もいる。私たち交流団は、きもの着付けの実演を中心に、ミニ浴衣の縫い方・折り紙・ちぎり絵の講習、お茶会などを行う。限られた時間で何かを得てもらえればと、20キロの重量制限と闘いながらきものやお茶碗や折り紙などを連れていく。

7月14日、私たちは無事ハバロフスクに到着しロシアの地を踏んだが、翌朝いよいよワニノに向かうロシア国内便に乗ろうとしたとき、事件は起こった。この頃は日本でも台風シーズンだったが、ハバロフスクでも台風の影響で前日の便が飛ばず、乗客は今日の便に回ってきているとのこと。やむなく私たちは二手に分かれた。きもの先生方は先に向かい、折り紙担当の小倉先生・記録担当の名島さんご夫妻・ちぎり絵担当の私はハバロフスクに残留となった。残留組に空港が無料で用意してくれたホテルはトイレ、シャワー共用の学生寮のようなもの。街の中心に出て一日ハバロフスクを楽しもう、ということで全員の意見が一致した。中心に向かうタクシーの運転手に聞いてみると、前日の台風はこれまでに見たことが無いほどの猛威だったとのこと、よく見るといくつも木が吹き倒されていた。まずアムール川岸に行った。日本では見られない雄大な流れにしばし気持ちを委ねようとした時、4人で互いを見合わせると私たちは蚊の大群の中にいた。別の自然の猛威に驚いて、青い屋根のウスペンスキー大聖堂へ駆け込み、静謐な教会でようやく落ち着いたところで、次は遠く金色に輝くスパソ・プレオプラジェンスキー大聖堂まで歩いていくことにした。長い上り坂の上にあるそびえるような大聖堂を見上げたとき、ロシアで何が起ころともおおらかでいられるような気がした。翌朝、飛行機の出発がさらに5時間遅れると聞いた時には、本当にワニノに行けるのか不安になったが、なんとか交流団はまた一つになった。ワニノでは芸術学校の生徒さんたちの文化祭が開催されており、少数民族の衣装など研究成果の展示がされていた。講堂では民族舞踊が披露され、身体全体で勉強しているのだな、と思う。生徒さんたちは夜遅くまで、折り紙、ちぎり絵、お茶の講習に熱心にとりこんでいた。

ロシアで文化交流を行うと感ずることは、他国の文化に真剣に興味を持つ方は自国の文化をよく研究し大切にしているということである。日本の文化を自信を持って紹介出来るように勉強しなくてはと改めて思う。ハバロフスク残留事件では、笑いが絶えることない三人の友人と小倉先生直伝の折り紙の技を得た。ロシアの自然と人々と文化に触れる交流団に参加させて頂いたことに感謝している。

(岩本智子・常任理事)

ワニノでは、1日目にきものデモンストレーション、2日目に手ぬぐいでミニゆかた製作講習会を行った。大人も子どもも興味津々で、5歳の子たちも何でも自分でやりたがる。飛行機の遅れで時間が延びたこともあるが、名島さん親子と渡邊さんの指導で全員が最後まで仕上げたのには驚いた。

ワニノは2回目だが、ナタリア会長の「はまなす」のメンバーの篤いもてなしでもう故郷のように感じられる。珍しい少数民族の民族衣装や踊りと歌による歓迎コンサート。講習後には箱いっぱいのカニ、とれたての野菜や魚、ヤクーツク独特の保存食等々をワインで賞味。アクシデントにも関わらず熱心に遅くまで大勢参加してくれた人々にすべての講習もこなして、ワニノの2日間は充実した濃いものだった。

子どもたちが折った千羽鶴を広島に送ってほしい、とナタリアさんに頼まれて帰国後にすぐ郵送。9月始めに広島市市民局平和推進課から、平和記念公園に飾られた鶴の写真と英語の感謝状が届いた。ワニノでは障害をもった子どもたちにも広島と長崎に落とされた原爆や禊子物語について話しているが、皆泣きながら聞いているようだ。



アーニャさん宅で

博物館の会場では囲碁、将棋、つまみ簪と一緒に岩本さんと小倉さんの風呂敷、折り紙のブースが設けられたがどちらも黒山の人だかりだった。つまみ簪はロシア人によるプロ級の作品が並んでおり、ゾーヤさんの依頼で、帰国後に日本の伝統工芸師を紹介して交流する約束をした。

「すずらん」のアーニャさんの家庭を訪問するのは何度目だろうか。毎回、家族全員で歓迎してくれる。とっておきのベリイ類や野菜などで心入れの様々な手料理を振舞ってくれ、家の中を全部見せてくれる。料理は随分前から私たちのために準備してくれるようだ。インテリアは自分たちで手を入れていて、行く度に新しく綺麗になっている。技術畑の名島正彦さんは日本では見られない珍しい窓の構造や天井の作りを目を見張っていた。今回はアーニャさんの結婚とおめでたという二重の喜びごとで一層楽しいひとときとなった。

名島正彦さんのお陰で交流団の様子が youtube で見ることが出来ます。http://www.youtube.com/watch?v=X94_Z1DkwHk をご覧ください。

(千葉麻里・常任理事)